

受講番号 18084 学校名 仁淀中学校 氏名 野村 由美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3学年 生徒数 22 名
科目名 3学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 東京書籍 NEW HORIZON CURSE

クラスの様子・特徴

授業への取り組みは、まじめで、落ち着いて学習ができるクラスである。学習意欲も高い。英語で発表する(読む、話す)ことが消極的である。また、英語で伝えたい気持ちを十分表現できていない生徒もあり、苦手を感じる生徒もいる。

問題の確定

「読むこと」「話すこと」の指導を重点的に行うことで、自己表現力を向上させるために取り組んでいく。

予備調査

A 授業の観察

授業に落ちついて取り組んでいる。全体的に発表する声は小さく、消極的な態度があるが、英語を理解したい気持ちは高い。単語練習や音読練習でもアクセントやイントネーションが十分でない。

B 生徒による授業評価

生徒の大半は「分かる楽しい授業」を受けたと思っている。また「話す力」「書く力」「読む力」をつけたいと思っている。学習に対しての意欲はかなり高いものがある。

C 学力データ

CRTの分析結果(4月実施)
4観点とも全国比を上回っている。観点別はA評価が多く、C評価が少ない。評定は5・4・3に全員が含まれ、4が多い。実力テストの表現の力問題(4月)平均6.75 最高15 最低0

リサーチ・クエスチョン

教科書を中心に十分な音読練習をし、語彙の定着ができ、自分が言いたいことを英語で表現するにはどのような指導がよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

内容理解をした教科書本文の音読練習を授業中に10回以上音読し、家庭学習で5回以上音読練習を続けていけば、学習した英語を読むことができ、話されている英語を聞き取り理解することにつながるだろう。

実践1

音読練習は、単調にならないように指導形態(全体、ペア、個人)を工夫した。さらに、音読の定着をより効果的にするためにジェスチャーリーディングやRead and Look upなどの手法を取り入れたり、時間を設定し音読する方法もとった。音読を得意とする生徒と苦手な生徒が教え合う場面を設定した。また、単元ごとに音読テストを実施した。

検証1

教科書本文の音読回数が多くなることで、生徒の授業への参加意欲はさらに高まった。また、時間内に音読することで、生徒たちには緊張感が高まったようだ。アンケートより、生徒たちはたくさん音読したので、家庭学習も以前よりも効率が上がり、音読練習が十分できていけば、授業が分かりやすいという意見が多かった。
単元ごとの音読テストでは、以前に比べると音読スピード、発音も向上した。

仮説2

副教材を使って、既習文型の音読練習・新出単語のペアワーク練習を行うことで、状況や説明したいことをまとまりのある文で表現することができるだろう。

実践2

副教材を使って、既習文型の音読練習をペア活動で行い、話した英文を各自ノートにまとめた。また、時間内に、いくつか指示された絵について英語を日本語で表現するテストを行った。このテストでは、複数回テストができることをあらかじめ指示をし、生徒に練習を重ねて取り組む機会を多く持たせた。新出単語は、時間内にペアで単語の音読練習を行い、毎時間10問ずつ単語テストを実施した。

検証2

副教材は、既習文型の定着をするための練習問題としても活用できたようだ。副教材の表現方法を書いたり、話したりすることで自学で学習を深め、定着するきっかけとなった。副教材を使っているSpeaking Testでは、全員が絵を見て表現することができ、自信につながることができた。単語テストの取り組みは、生徒の学習の意欲付けにもなり、休み時間もテストに向けて仲間と一緒に取り組む姿勢も多く見られた。

仮説3

教科書を活用し、音読練習後Dictationを取り組めば、語彙の定着ができるだろう。また、副教材を活用し、学期ごとに300文ずつノートに英語での表現をまとめて学習を継続させていけば、英語を苦手としている生徒も英語を使って表現する活動に意欲的に取り組めるだろう。

実践3

既習の文法や語彙を使い、副教材を活用して、学期ごとに300文の英文をノートにまとめた。英語で表現する力を見るために、定期テストで確認した。また、中間テストの表現の力の問題は、期末テスト後、もう一度期末テストの表現の問題と合わせて再テストを実施した。
Dictationは、単元ごとに複数回行い、語彙の定着を図った。

検証3

音読練習とDictationを連動させた取り組みは、明確に学習方法を提示することで、英語に苦手意識を持っている生徒も学習がしやすいようになった。
Dictationや自己表現ノートの取り組みは、学習内容の理解を高めることができた。また、テスト勉強に役立てることができ、テストの中の英語で表現する問題は、以前より表現することができたという感想があった。

研究の成果

教科書本文の音読練習を多く取り入れた活動により、語彙の定着が図れ、自己表現活動につなげることができた。読むことができれば、語彙の定着にも大きく影響することがテストの結果からも見ることができた。音読練習をすることで、テスト勉強や家庭学習が今までより取りかかりやすくなった。また、学期ごとの300文の英語表現ノートの取り組みは、自己表現力を伸ばす意欲を高めることができたというような感想が生徒から多かった。副教材を活用したSeaking Testは、英語で話すことへの自信につながることができた。

今後の授業改善の課題

今後、英語学習の中で英語に多く触れ、学習した内容を十分に理解でき、自学へと結びつような指導の工夫をしていきたい。また、常に、生徒の生の声を聞き、指導の改善をしていくことで英語の授業が分かりやすいものに改善できると考える。授業の中で、4技能を含めた学習形態をさらに研究していきたい。